

潮音寺だより

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第 236 号

平成 15 年 6 月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 - 10-11



樂に逢う時は七宝樂邦の樂しみ
 を祭して念仏し、苦に逢う時は
 三途八難の苦しみを思い出して
 念仏すべし。【出典】西山国師御法語

覚えず
 歌声が
 出るほどに

楽しいときは

西方

極樂に
 想いを馳せ
 念仏をせよ

苦しく
 あまりの
 辛さに

眉間に

しわを寄せ
 呻き喘ぎ
 悶々たるときは

阿鼻
 叫喚地獄の
 苦しみを想い
 念仏をせよ

麻を担う

このところ、また変な宗教団体が、世間を騒がせています。

第十惑星ニビル星が地球に接近して、壊滅的な大災を受けるとか、ミカエル大王妃と称する教祖を、電磁波のスカラー攻撃から守るためにと、白装束のキャラバン隊を組んだりと、尋常とは思えない発言や行動をしています。

荒唐無稽な教義・理論ではありますが、危険な終末思想を掲げている点など、かのオーム真理教と共通点も多いということ、別件ではありますが、警察の捜査が入るところとなりました。それにしても、このような組織に、なぜ、信者や資金が集まるのか、不思議に思えます。

仏典(中阿含経第十六)に、次のような話があります。

.....

あるところに、友人二人の男が、家を離れて、旅に仕事を求めてさまよい歩いていました。あるとき、彼らは道に多くの麻が生い茂っているのを見て、持ち主がなさそうなので、相談の上、刈り取り、重いほど背に担って、家に帰って資金の足しにしようとなりました。

二人が、重い麻を背負って歩いていくと、道にたくさん、織物等が持ち主もなく置かれていました。また少し進むと、銀が置かれていました。一人は、その度ごとに、前の麻は捨て、貝、織物を取り、また更に多くの銀と取り換えました。しかし、もう一

方の一人は、依然として麻を背負っていました。

こうして、一人は麻を担い、一人は銀を担って進んでいきました。すると、今度は多くの金塊が、道に持ち主もなく置かれていました。銀を担った男は、麻を担った男に、「こんなにたくさん金塊がある。しかも所有者もないのだから、値打ちのない麻などは捨てて、二人して持って行くのではないか。そうすれば、たちまち大金持ちになれるよ」といいました。

ところが、「ぼくは、麻をしっかり背負い込んでしまつて、容易には背から下ろせないんだ。それに、せっかく遠方からこうして運んできたかと思うと、今更捨てる気にもなれないんだ。

君は欲しかったら、たくさんその金塊を持って行くがいいよ。ぼくに遠慮はいらないよ」といって、金塊を取ろうとはしませんでした。

あまりの分からなさに、銀を担った男は、ついに怒り出して、相手の男の背中うしろの麻を無理矢理下ろして、捨てさせようとした。しかし、その男がいうように、しっかりと結び付けてあって、取るうにも取れません。そして、相変わらず、「堅く結び付けてあるから、簡単には取れないと思うよ。ぼくにはかまわず、君は金塊を持って帰ってくれたまえ」と、あくまで頑な態度であります。銀を担った男は、呆れはて、度し難しと、自分の抱っていた銀を捨て、自分だけ、持てるか

ぎりの金塊を背負って帰ることにしました。

郷里に着くと、金塊を持ち帰った方の男の両親は、「まあよく帰ってきた。おまえは賢い。こんなにも高価な金塊があるじゃないか。これからは、私どもや妻子ともども豊かな生活ができるよ。僧やバラモンにも布施をすることができ、功德を積むことができるよ」と、上にも下にも置かず褒めはやして、歓迎するのであります。

一方、麻を持ち帰った方の男の両親は、「よくも帰ってきたものだ。こんな麻など重そうに背負ってきた、とつするつもりだ。それで、父母や妻子を養うことができるのか。この大馬鹿者が」と、彼の頭上から、吐き出すよう

に罵声を浴びせかけました。

……………

この話は、善を見てもすすんで取ることができない者や、悪だと分かっても捨て切ることができない者は愚かである、との教への囁きとして説かれたものであります。

一途であるということは、ある意味ではいいことなのですが、価値のないものを、後生大事に抱えているようでは、麻を持ち帰った男と同様、大馬鹿者に違いありません。

先の白装束集団は、「第十惑星ニビル星」「ミカエル大王妃」「スカラー波」等々、その軽薄なことばが示すとおり、麻どころか、スフにも劣るものを、捨て切れないでいるようです。

菩提 ぼだい

現在では、「菩提寺」とか「亡き人の菩提を申す」といったときに使うことが多いようですが、「菩提」というのは、サンスクリット語のボーディを音写したもので、意味としては「覚」「智」「道」などと訳されます。

釈尊のことを「覺者」ともい、悟りを開かれたことを「成道」、あるいはまた、釈尊がその下で悟りを開かれた樹木の名を「菩提樹」というように、「菩提」というのは、結局、悟りを得ること、もしくは悟りの智慧をさすことになります。

なかでも、釈尊の悟りは最高

住職通信

第一の財産は健康である
健康は労働から生まれる
満足は健康から生まれる



の悟りであるとして、「アマッタラサンニャクサンボーディ」といい、これを訳して、「無上正等正覚」とか「無上菩提」といっています。
仏教の修行においては、まずこの「菩提」を求めようという

強い意志をもつことが大事で、これを「發菩提心」といいます。そして、その心を起こした人のことを「菩薩」というわけですが、菩薩は、たんに自分の悟りを求めるだけでなく、つねに人々を導いていくという使命がありますから、そのことを「上求菩提・下化衆生」といっています。

（心ざちや『仏教百科』）

雑記

▼感謝 その。



新築庫裏へのご寄付を、小島様より頂戴いたしました。また、徒弟正道卒業祝いとして、松村憲一様より頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。

▼11報告

4月24日、総勢44名で、本山団参に行つてまいりました。あいにくの雨模様（先回も…）でしたが、無事に始経師を勤めることが出来ました。皆様のお陰、ご支援有り難うございました。

▼庭木

昨年秋に植えたヤマボウシが、初めて花芽をつけました。

▼ヤマボウシ

朝風誘う花車 沐魚